

西彼勢初の優勝戦進出した端島炭鉱は、西肥バスの前に惜敗

第8回県下郡市対抗準硬式野球大会

会期：昭和33年11月2日(日)～3日(祝)

会場：A・長崎市宮大橋球場 B・長崎商高球場

全 芦 辺(壱岐)	2	2	1	4	3	藤田イーグルス(諫早北高)	
西肥バス(佐世保)	13					4	端島炭鉱(西彼)
島原ラッキー(島原南高)	1					3	長崎県庁(長崎)
日鉄北松御橋(西彼)	9					1	福江北クラブ(五島)
						8	長崎澱粉(大村東彼)

第8回県下郡市対抗準硬式野球大会は大橋球場に9地区代表140人の選手が参加、浦上原頭の空高く鳴りわたるファンファーレによって華やかに幕を開けた。入場式は県警プラスバンドの行進曲ののって国旗、大会旗、連盟旗に続いて、前年度優勝地区の佐世保代表の西肥バスを先頭に、長崎県庁、福江北クラブ、端島炭鉱、藤田イーグルス、日鉄北松、島原ラッキー、遠来の全芦辺の順で堂々の歩を進めた。国旗、大会旗、連盟旗の掲揚に続いて、前年度優勝の紋珠岳炭鉱(代理・西肥バス)、準優勝の長崎県庁から、優勝旗等の返還。大会あいさつ、励ましのことば、祝辞等に次いで全選手を代表して西肥バスの浮田逸郎主将が選手宣誓を行った。この後で本大会の発展に尽力した故・渡貫前



長崎日日新聞社長の霊に全員で感謝の黙祷を捧げて式を閉じた。
(昭和33年11月3日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

三回で勝負決まる 長崎澱粉、福江を寄せ付けず

【評】3年連続3度目出場の長崎澱粉が三回までに10長短打で8点を奪って七回コールド勝ちした。初回の長崎澱粉は一死後四球に小川の中越え二塁打、荒木の右前適時打と馬場の犠飛で2点。二回に1点を加えた三回にも4連続安打で平井投手をKO。代わった白石にも北川と田中が好打して打者一巡の5得点で計8点を挙げた。

一方、チームを結成5ヶ月で五島地区の代表権を獲得の福江北クラブは、荒木と中尾両投手の速球に手が出ず、四回に比留木と山下の短長打で1点を返したのみ。

本大会唯一の一回戦を長崎商高球場で行ない、勝利した長崎澱粉は再び大橋球場に移動して、同球場の第4試合で長崎県庁と対戦する。

【一回戦】長崎商高球場(10:10開始) 振球犠盗併残失

福江北クラブ	000 100 0	1	5	0	0	1	0	4	1
長崎澱粉	215 000 X	8	1	2	1	4	0	6	1

【二】山下、小川、荒木、馬場 1時間25分

【福江北クラブ】	打安点	【長崎澱粉】	打安点
③ 磯田 剛	3 0 0	⑨ 草野 徳美	4 1 0
② 夏井 稔安	3 0 0	⑦ 田中 淳	2 1 2
⑤ 比留木 竹次	3 2 0	②③ 小川 守	4 3 0
④ 山下 壱弘	3 1 1	①② 荒木 省自	4 2 1
⑥ 佐々木慎太郎	3 1 0	⑥ 馬場 格	3 1 3
⑨⑧ 才津 琳央	3 0 0	⑧ 永尾 武一郎	3 1 1
⑦ 山内 輝男	1 0 0	⑤ 大島 渉	3 0 0
7 植松 良一	2 0 0	③ 北川 定	2 1 0
①⑨ 平井 義洋	3 0 0	1 中尾 実	1 0 0
⑧ 植松 和臣	1 0 0	④ 北川 公文	3 1 0
1 白石 昇	1 0 0	(監)大塚禎夫	29 11 7
(監)野原善照	26 4 1		

【端島炭鉱】 打安点

⑥ 安達八十三	5 0 1
④ 川本 学	6 2 0
⑤ 毛利 和彦	5 1 0
② 神谷 和孝	5 0 1
① 尾崎 英	5 2 1
⑧ 船津 留吉	5 3 1
③ 本多 勝利	5 0 0
⑦ 吉原 理智	4 0 0
⑨ 篠崎 忠男	4 0 0
(監)手津倉利	44 8 4
(控)高市博、東鉄次	
土居守一、杉山淳雄	

先制点空し 藤田イーグルス(諫早) 延長 端島炭鉱、スクイズで辛勝

【二回戦】大橋・第1試合(09:30開始) 振球犠盗併残失

端島炭鉱	000 300 000 001	4	9	1	2	3	1	7	2
藤田イーグルス	002 100 000 000	3	6	2	0	2	0	6	5

【二】古川 2時間16分
端島炭鉱は第5回大会以来3年ぶり二度目の出場でベテラン尾崎が健在。一方の藤田イーグルスは諫早北高地区予選優勝の長崎刑務所が都合で出場辞退したために代理出場となったが、投手陣が手薄なため大洋造船から中島を補強した。
※戦評は次ページに記載

【藤田イーグルス】 打安点

⑨ 井手 幸雄	4 1 0
④⑥ 与田 長春	5 1 0
③ 勝山 謙介	5 0 0
② 山口 健一	5 3 2
⑧ 真崎 秀雄	5 0 0
⑦ 古川 春男	5 1 1
⑤④ 福井万八郎	4 0 0
H 古賀 実富	1 0 0
① 中島 重雄	4 0 0
H 山口 登	0 0 0
⑥⑤ 龍田登志夫	5 1 0
(監)藤田一	43 7 3

【二回戦】大橋・第1試合(09:30開始)

振球犠盗併残失

(西 彼)
(諫早北高)

端島炭鋳	000 300 000 001	4	9	1	2	3	1	7	2
藤田イーグルス	002 100 000 000	3	6	2	0	2	0	6	5

【二】古川

【評】延長12回の端島炭鋳は敵失とバント警戒あまりの四球で一二塁、篠崎がきっちり送った二三塁に安達がスクイズを決めて決着した。

端島の尾崎投手は立ち上がり悪く、初回の二死一三塁はしのいだが、三回に山口に2点打を浴び、四回には古川に適時二塁打を打たれて1点を与えた。しかしその後は尻上がりに調子を取り戻し、2安打に抑えて

勝利の原動力になった。

藤田イーグルスの中島投手も四回に4安打を集中されて3点を献じたものの、内角に沈むシュート、外角低目に決まるカーブの配合が良く、かなりの好投を見せたが、痛いところでエラーが出て敗戦投手となったのは気の毒だった。

日鉄御橋、猛打爆発

亀沖が2ラン本塁打を放つ

【二回戦】大橋・第2試合(12:10~) 振球犠盗併残失 1時間31分

日鉄北松御橋	000 612 0	9	2	3	1	1	1	7	1
島原ラッキー	010 000 0	1	6	3	1	2	0	6	2

【本】亀沖 【三】波多 【二】坂本、高田、木原

【日鉄北松御橋】 打安点

- ⑥ 亀沖 了 4 2 2
- ⑦ 木原 正秀 4 2 0
- ② 進藤 忠義 4 2 1
- ③⑧ 畑田 昭夫 4 2 1
- ⑧⑨ 上田 正久 2 0 0
- ④ 砂田 靖盛 3 2 1
- ⑨ 米村 辰見 1 0 0
- 1 小松 勤 3 1 1
- ⑤ 堀 辻之 4 1 1
- ①③ 波多 信行 3 1 2

(監)松田宗馬 32 13 9
(控)鳥越靖二、井浦東洋
藤木智明、藤田裕

【評】日鉄御橋は本大会の第1、2回に連続優勝。28、30年には全国炭鋳大会で優勝している。左腕エースの小松を温存させて波多を先発させたが、単調な投球で二回に坂本、原口に長短打され1点の先制を許した。打線も三回まで左腕の坂本の軟投に手こずっていたが、打者一巡した四回に畑田の安打を口火に猛打爆発。亀沖の2点ランニング弾を含む6安打集中して大量6点を挙げて坂本をKO。代わった橋本からも加点してコールドゲームとした。

島原ラッキーは、第1、3、6回の三度出場している島原ニュースターの後身。一ヶ月前にチーム結成し地区予選に出場したのが初の公式戦で代表権を獲得した。だが、三回途中から代わった小松に対して得点を挙げる事ができずに早々に敗退した。

【島原ラッキー】 打安点

- ⑥ 山口国一郎 3 1 0
- ⑦ 入江 広海 4 0 0
- ⑤ 高田 義信 2 2 0
- ⑧ 本多 幸 3 0 0
- ①⑨ 坂本 博幸 2 1 0
- ② 松園 実男 0 0 0
- 2 田中 博 2 0 0
- ④ 原口 哲彦 3 2 1
- ③① 橋本 東洋 2 0 0
- H 松田 清弘 1 1 0
- ⑨ 徳永 忠臣 1 0 0
- 3 畑 勝 1 0 0
- H 寺中 清 1 0 0

(監)池田義定 25 7 1

西肥バス、14安打13点

全芦辺を七回コールドで降ろす

【二回戦】大橋・第3試合(14:05~) 振球犠盗併残失

西肥バス	012 044 2	13	1	3	0	6	0	5	0
全芦辺	110 000 0	2	3	1	1	0	0	6	1

【三】南里2 【二】南里、飯田、深野、西 1時間40分

【評】4大会連続出場の芦辺が初回に大川、西の連打と樋口の内野安打で先制点を挙げ、二回にも加点して好調なスタートを見せたが、樋口の制球が悪く暴投7個を犯して敗退した。

西肥バスは二回に暴投で同点とし、三回は無死一塁で南里の三塁打と敵失で優位に立った。その後も毎回走者を出し確実なヒッティングで加点。南里の5安打は特筆もの。

【西肥バス】 打安点

- ⑥ 南里久似彦 5 5 2
- ⑦ 飯田 恒典 4 2 2
- ⑨⑧ 浮田 逸郎 5 1 2
- ④ 波井 稔 4 2 1
- ② 緒方 哲郎 4 1 0
- ⑧① 西町 吉生 4 1 1
- ⑤ 田中 清明 2 0 0
- ③ 井崎 健次 3 0 0
- ① 吉田 昌弘 2 1 1
- 9 深野 晃 1 1 1

(監)村崎久 34 14 10

(控)松尾砂人、溝口功
杉原惇孝

【全芦辺】 打安点

- ⑤ 大川 忠正 3 1 0
- ④ 西 敏明 3 2 1
- ⑨①⑨ 平川 定雄 3 0 0
- ⑥ 豊田八真登 3 1 0
- ⑧ 土肥 三郎 3 0 0
- ①⑨① 樋口 健治 3 2 1
- ③ 武末 剛 3 0 0
- ② 竹内 嘉行 3 0 0
- ⑦ 立石 武 1 1 0
- H 米倉 勉 1 0 0

(監)柳沢文雄 26 7 2

(控)藤本正雄、柳沢寛治
武末平八郎



1回表一死三塁浮田の遊ゴロで三走の南里が本塁突くも一瞬アウト



県庁、好機を生かす

宮原、長崎澱粉を4安打に抑える

【二回戦】大橋・第4試合(15:55～) 振球犠盗併残失

長崎県庁	003 000 000	3	4	1	4	0	0	6	0
長崎澱粉	000 100 000	1	4	1	2	0	0	4	3

【三】入江 【二】佐々野 1時間30分

【長崎県庁】 打安点

④ 白浜 真	3 0 1
⑥ 佐藤 昌幸	4 0 0
⑤ 入江 勝則	4 1 2
⑧ 佐々野康臣	4 1 0
③ 中村 豊	4 1 0
① 宮原 直善	3 1 0
⑦ 今村 視明	2 0 0
② 岩永 豊明	4 3 0
⑨ 本田 武雄	1 0 0
9 庄司 惣八	1 0 0
9 町田 昇	1 0 0
(監)中村豊	31 7 3
(控)川原武徳、吉村淳	
為政隆、	

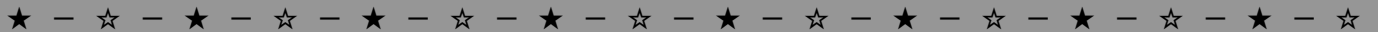
【評】激戦の長崎地区で昨年同様、本命の長崎機械工具を破って出場の県庁は宮原の好投によるところが大きかった。この試合ではカーブが決まらず絶好調とはいえなかったが、シュートと浮き上がる球のコンビネーションで澱粉打線を4安打に抑え、与えた1点は四回に小川、馬場に安打された二死二三塁に自らの暴投によるものだった。

県庁は三回、先頭が死球後に岩永の投前バントが内野安打になり、本田が送った後に白浜のスライズ。これを前進守備の一塁手がトンネルして先制。佐藤のスライズは岩永が本塁に封殺されたが、入江が右中間三塁打して二者を還して3点のリードを奪った。

完投した宮原は、多彩なピッチングもさることながら、打者のタイミングを外すのも巧く技巧派投手としては県下No.1といえよう。先に行なわれた県下労組大会で、相手を完全に抑えるのだが味方打線の援護も無く2試合とも延長戦。決勝戦の西肥バスとの試合も双方無得点で延長24回に突入。この回に1点許して準優勝投手となったが、三日間3試合で61イニングス目に初失点した。

【澱粉】 打安点

⑨ 草 野	4 1 0
⑦ 田 中	3 0 0
② 小 川	4 1 0
① 荒 木	4 0 0
⑥ 馬 場	4 2 0
⑧ 永 尾	2 0 0
⑤③ 大 島	2 0 0
③ 北川 定	2 0 0
4 中 尾	1 0 0
④⑤ 北川 公	3 0 0
	29 4 0



七、八回に大波乱

県庁、連続エラーで自滅

【準決勝】開始09:02 1時間48分 振球犠盗併残失

端島炭鋳	000 000 130	4	7	0	3	1	1	5	3
長崎県庁	000 110 000	2	3	2	2	1	0	9	4

【三】入江、佐藤 【二】篠崎、毛利、今村

【端島】 打安点

⑥ 安 達	3 0 0
④ 川 本	3 1 0
⑤ 毛 利	4 1 2
② 神 谷	4 0 0
① 尾 崎	4 1 0
⑧ 船 津	4 1 0
③ 本 多	4 2 1
⑦ 吉 原	4 0 0
⑨ 篠 崎	4 1 0
	34 7 3

【評】またまた県庁の宮原は悲運の敗戦投手になった。昨年の優勝戦で内野失により栄冠を逃がしたが、この試合もバックの拙守から敗戦に追いやられた。2点をリードしての七回二死一塁で本多が放った中前打を後逸により1点差に詰め寄せられ、八回には一塁失と捕前バントの捕球ミスで無死一二塁。川本に送りバントを決められて毛利から左線二塁打されて2点。さらに中飛により三進を図った毛利を刺そうと佐々野の三塁送球が悪投となって、この回に3点を失った。

県庁は立ち上がりの尾崎を攻め、初回二死後に入江の三塁打、二回は一死満塁、三回は先頭の佐藤が三塁打するなど先制機はあったが、二回はスライズ失敗、一三回は後続の不振から無得点。四回に二塁打の今村が敵失により、五回は安打の白浜が二盗した際に捕手からの悪送球が右中間を転々とする間に還った、拾い物の2点を挙げたにすぎなかった。

【県庁】 打安点

④ 白 浜	5 1 0
⑥ 佐 藤	5 1 0
⑤ 入 江	4 1 0
⑧ 佐々野	3 0 0
③ 中 村	4 2 0
① 宮 原	3 1 0
⑦ 今 村	4 2 0
② 岩 永	4 2 0
⑨ 本 田	1 0 0
H 庄 司	1 0 0
9 町 田	0 0 0
	34 10 0

緒方 サヨナラ二塁打

北松 "延長" に無念の涙

【準決勝】開始11:30 (延長11回) 振球犠盗併残失

日鉄北松御橋	000 100 000 00	1	9	3	3	0	0	11	0
西肥バス	000 010 000 01x	2	6	3	3	3	0	6	3

【二】飯田、緒方、田中、亀沖、進藤、波多

【評】延長11回裏の西肥バスは四球とバントで二進後に緒方が内角直球を左線二塁打してサヨナラ勝ちした。

先制したのは四回の日鉄北松。木原の安打を皮切りに敵失と死球の一死満塁に砂田が初球スライズを決めた。さらに五回にも一死から亀沖、木原の長短打で好機を作ったが、亀沖が捕手からの牽制球に刺されて逸した。この後に進藤の当たりが遊ゴロイレギュラー安打となっただけに北松にとっては惜しい逸機だった。

これに対して西肥バスは五回、南里が歩き飯田の三塁打で同点に追いつき、その後は両投手の投手戦となった。

日鉄北松御橋炭鋳にとっては、6年ぶり三度目の大会で初の黒星を喫したことになるが、今季の公式戦は今大会を含めて31勝4敗となった。

また西肥バスは2年前の第6回大会に高卒ルーキーの左腕・西町を擁して初出場。2勝を挙げた準決勝で長崎澱粉に0-1敗退以来二度目の出場。

【北松】 打安点

⑥ 亀 沖	4 1 0
⑦ 木 原	5 1 0
② 進 藤	4 4 0
⑨ 上 田	4 0 0
③ 波 多	5 1 0
⑧ 畑 田	4 0 0
④ 砂 田	4 0 1
⑤ 堀	5 0 0
① 小 松	4 0 0
	39 7 1

【西肥】 打安点

⑥ 南 里	4 3 0
⑦ 飯 田	4 1 1
⑧ 浮 田	4 1 0
④ 波 井	4 1 0
② 緒 方	4 2 1
① 西 町	4 0 0
⑤ 田 中	4 1 0
③ 井 崎	4 0 0
⑨ 深 野	3 0 0
	35 9 2

佐世保に三たび栄冠 西肥バスが優勝

両チームとも初優勝を目前に最後の精魂を傾けた一戦は、緊迫した優勝戦となったが、西肥バスがバント安打で決勝点を挙げ優勝の栄に輝いた。これで、第3回の共済病院、第7

回の紋珠岳炭鉱に次いで佐世保地区から三度目の優勝チームが誕生した。

(昭和33年11月4日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

明暗描いた五回の攻防 西町の左腕、端島炭鉱を押さえる

【優勝戦】開始15:00 1時間42分 振球犠盗併残失

端島炭鉱	001 000 000	1	8	1	1	0	1	10	1
西肥バス	010 010 00X	2	2	3	0	0	1	3	1

【三】浮田 【二】西町、川本

【端島】打安点

⑥ 安達	4	1	0
④ 川本	4	1	1
⑤ 毛利	4	1	0
② 神谷	4	0	0
① 尾崎	4	0	0
⑧ 船津	4	2	0
③ 本多	2	0	0
⑦ 吉原	3	0	0
⑨ 篠崎	3	1	0

【評】西肥バスの西町は左腕から内角低目に食い込む直球と鋭いカーブで、端島炭鉱の尾崎は切れのよいシュートと外角一杯に決まるカーブの配合良く相譲らぬピッチング。しかし両軍打線は両投手の出来を上回るものがあつた。西肥バスは二回一死後に四球と西町の右越え二塁打で二三塁の好機。田中の三ゴロで三走の緒方は本塁憤死し二死となったが、井崎の遊撃右を抜く安打で三塁から西町が生還して(写真右)先取した。

【西肥】打安点

⑥ 南里	4	2	0
⑦ 飯田	3	0	0
⑧ 浮田	4	1	0
④ 波井	3	1	0
② 緒方	3	1	1
① 西町	4	1	0
⑤ 田中	4	1	0
③ 井崎	4	2	1
⑨ 深野	4	0	0

しかし端島もすぐさま、二死一塁に安達を置いて川本が右翼線を抜く二塁打でたちまち同点とした。このあたり両軍は「好球必打」の果敢な攻撃ぶりだった。

必勝の意気に燃える西肥バスは三回に無死満塁の好機を作つたが中軸打者の不振で逸し、五回二死後に浮田が中堅頭上を大きく破る三塁打で出塁。波井は敬遠気味の四球のあと、緒方が一球目に野手の意表をついたバント安打で浮田を還して再び優位に立った。

一方の端島炭鉱は五回無死一二塁のチャンスをバントの拙さで失つたのが痛く、六回以後は味方のリードに余裕を持った西町の力投にチャンスを作れず、無念の涙を呑んだが、敗れたとはいえその健闘は賞されてよい。これもベテラン尾崎投手の好投があつたからこそである。



閉会式は午後4時55分からスタンドを埋めたファンの中で行われ、県警ブラスバンドの行進曲で両チームが入場し、西肥バスの浮田監督に大優勝旗、桑原会長杯、読売新聞社杯が大会会長の市川謙一郎長崎日日新聞社長より渡された。準優勝の端島炭鉱にも準優勝杯や賞品が贈られた。



個人表彰は、最高殊勲選手賞に緒方哲郎捕手(西肥)、最優秀投手賞に西町吉生(西肥)、首位打者は13打数10安打の南里久似彦遊撃手(西肥)、敢闘賞は南里遊撃手と、端島炭鉱から尾崎英投手、船津留吉中堅手、神谷和孝捕手の計4人。優勝監督賞に西肥バスの浮田逸郎監督がそれぞれ受賞した。

昭和33年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第13回全日本軟式野球大会【51チーム】
(S33.8.7～:広島県)
日鉄北松御橋【一】 1-0 日立金属桑名(三重)
【二】 0-1 竹田病院(福島)

第9回西日本準硬式【26チーム】5.9～:福岡県
長崎刑務所【一】 0-1 日本通運富山支店

第13回富山国体【27チーム】10.19～23
住友潜龍鉱業所【二】 0-4 住友化学工業(愛媛)

第2回高松宮賜杯全日本大会(2部)9.23～:大阪府
相浦食販【一】 10-0 幌別富士鉄社宅(北海道)
【二】 1-0 熊野倶楽部(開催地)
【準】 0-2 富士工業宇都宮(栃木) = 優勝